

自転車通学者に対する交通安全教育による法令順守の動機づけと意識変化・行動変化の関係性について（2019 年，周南市立菊川中学校の事例から）

徳山工業高等専門学校 正会員 ○目山 直樹

1. 研究の目的と方法

本研究は，周南市菊川地区を対象として，5年にわたり小・中学生双方への交通安全教育を実施した活動を通じて得られた知見をまとめたものである^{1),2),3),4)}（表-1）．とくに，本稿では，自転車通学者に着目して，意識変化と行動変化について考察した．

研究の方法は，児童・生徒に対する交通安全講話の実施と，受講前後での観測調査による行動変化，アンケート調査による意識変化の観察による．これらの経年的な継続実施により，正しい交通規則を認識させ，より安全な交通行動（とくに，一時停止と通行位置）への変化を促すこととした（図-1）．

また，高専の卒研生が作成した自転車通学者に対する動機付け資料を，交通安全講話で実際に使用することで，より効果的な生徒の交通行動の変化を狙った．

2. 法令順守の動機づけ教材の作成

(1) 作成方法

2018年度の活動³⁾のなかで，自転車の一時停止と通行位置の遵守率が低く，改善する必要があったため，動機付け教材を作成した．

一時停止では，実際に高専学生がモデルとなり，「一時停止の4つの段階」を動画で見せ，どの動画の行動が正しいか考えさせる講習形式にした．

通行位置では，自転車通行帯のある道路の写真を示し，どの通行位置を通行するのが正しいのか考えさせ，正しいものに挙手する講習形式とした．

(2) 一時停止について

4段階の写真を示し，どれが正しいと感じたか事後アンケートにより調査した．調査内容を表-2に示す．

この結果から，4の「停止線で止まり降りて左右確認をする」（図-2）が一番正しいと感じている生徒多いことが分かり，動機付け資料の効果が確認できた．

表-1 菊川地区での取り組み^{1),2),3),4)}

2015年度	6月	菊川小学校3年生以上に交通安全講和を実施，講和前後に事前・事後アンケートを実施
2016年度	7月	事前観測調査
	8月	菊川小学校3～5年生と菊川中学校全学年に交通安全講和を実施，講和前後に事前・事後アンケートを実施
	10月	事後観測調査
2017年度	9月	事前観測調査，菊川小学校3～6年生と菊川中学校全学年に交通安全講和を実施，講和前後に事前・事後アンケートを実施
	10月	事後観測調査
	7月	事前観測調査
2018年度	9月	菊川小学校3～6年生と菊川中学校全学年に交通安全講和を実施，講和前後に事前・事後アンケートを実施
	10月	菊川中学校全学年に交通安全講和を実施，事後観測調査
	9月	事前観測調査，菊川小学校で交通安全講和を実施
2019年度	11月	菊川中学校全学年に交通安全講和を実施，事後観測調査

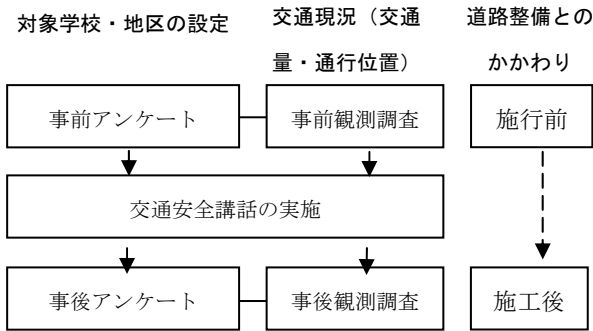


図-1 調査の組み立て^{1),2),3),4)}

表-2 一時停止の遵守率⁴⁾

問10.自転車に乗る時、交差点での一時停止はどのようにしていますか？		
	回答数	回答率
1.止まらずに通る過ぎる	4	2.1%
2.停止線で止まる	12	6.2%
3.停止線で止まり、自転車から降りる	11	5.7%
4.停止線で止まり降りて左右確認する	160	82.9%
無回答	6	3.1%



図-2 一時停止の動機付け教材⁴⁾

3. 交通安全講話と生徒の意識変化

交通安全講話の事前と事後でアンケートを行い、自転車安全利用5則の各項目を認知しているかを問う設問で一時停止と通行位置に関する動機付け教材の効果を測定した。

「交差点での一時停止と安全確認を必ずするか？」という質問では、事前より事後の方が、遵守率が上回っていた。また、他の項目の遵守率80%台に対し、一時停止は90%を超える結果を得たことから、動画使用は生徒の関心をひくことができたといえる。スライドで説明するだけでなく、動画や実演での対話などの説明方法を取り入れることで、より効果的な交通安全教育を行うことができる可能性があることがわかる。

表-3 交差点での一時停止の遵守率⁴⁾

	2016年	2017年	2018年	2019年
事前	74.9%	77.2%	70.1%	86.3%
事後	89.3%	80.3%	76.2%	92.8%
差分	14.4%	3.1%	6.2%	6.5%

4. 自転車通学者の行動変化（定点観測）

(1) 2016-2019年度の一時停止遵守状況

2017年調査によると、周南市勝間駅北の路上における熊毛中学校生徒の自転車は300人近くが自転車通学しているにも関わらず、43.5%が4.を実施している。これと比較すると菊川地域は少人数で75%が実施していることから、あと残り僅かの人の意識が足りないと考えられる。今後も交通安全教育を継続し、100%の実施を期待したい。

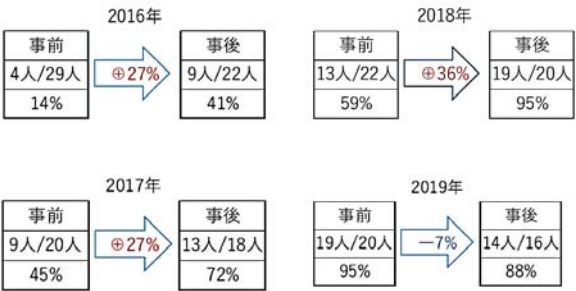


図-3 4年間の一時停止の遵守率の変化⁴⁾

(2) 2019年度の一時停止の中身

2019年の事後観測の一時停止状況をみると、4分類のうち、1.が2人、2.が1人、3.が1人、4.が12人であっ

た。停止し、降りて左右確認するものは全体の75%に過ぎない。そのため、今後も指導を続ける必要がある。

表-4 一時停止の遵守状況（まとめ）⁴⁾

	アンケートで分かったこと	実態調査で分かったこと
一時停止の遵守	・2019年の遵守率が最も良かった。	・2019年の全校生徒と自転車通学生の危険意識はほぼ同じ。
	・交通安全教育により上がった危険意識が次の年には元に戻っていることから、危険意識が1年間の間に薄れている。 ・3年次に危険意識が下がる傾向がある。	・余裕のある時間帯ではほとんどの生徒が自転車を降りて一時停止していた。

(3) 遅刻しそうな人がルールを守れない

遅い時間帯に登校する生徒が一時停止を守らなかったことから、遅刻しそうな人が焦っていて一時停止をしなかったものと考えられる(図-4)。

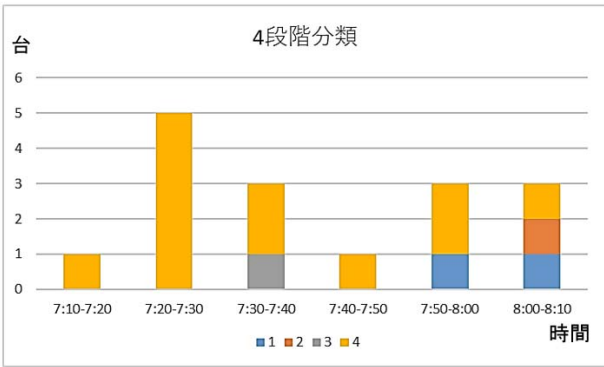


図-4 4段階分類状況(2019) ⁴⁾

謝辞：本研究は、2019年度の卒業研究生、沖知瑛さん（現在、防府市職員）と目山研究室の研究成果である。沖さんには、交通安全講話の部分分担を含め、多大な協力を得た。記して謝意を表したい。また、本研究を進めるにあたり、菊川中学校の教職員、生徒、保護者、地域住民の方々の協力を得た。記して謝意を表したい。

参考文献

1)目山直樹：周南市3地区における児童・生徒への交通安全教育を通じた通学路の危険意識、行動意向の変化について、土木学会大会、2016年9月
2)目山直樹、村田裕平：交通安全教育による自転車と歩行児童との通学時通行位置の分離、土木学会中国支部研究発表会、2018年5月
3)目山直樹：周南市菊川地区における児童・生徒への交通安全教育を通じた通学路の意識と行動の変化について、土木学会大会、2019年9月
4)沖知瑛：自転車通学者に対する交通安全教育による法令順守の動機づけと意識変化・行動変化の関係性について、2019年度徳山高専土木建築工学科卒業論文、2020年2月
5)警視庁：自転車安全利用五則：
http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/kotu/bicycle/five_rule.htm, 2020年2月20日最終確認